

うらたての物語

十五

^ 12  
4108  
15



4108  
15

利  
4108  
15-15

宇治拾遺物語卷第十五目錄

法見原天皇与大友皇子合戦之事

一 了らじとまごが胡人見せしる事

二 賀茂屋茶井のり武正蓋初由後之事

三 門部府生海賊射逐之事

四 土佐判官代通法人遠去て用白教之事

五 極樂寺僧施仁王経之事

六 伊良縁野世恒毗沙門佛下文乃事



宇治拾遺物語

15







そ乃人々として追跡を免れしをれどもあつたに思  
ふ大なるの言ふに其別處にありては女は信れ  
ざるに乃を軍もよまふ入はむと行んをと同様  
なれども女はしつとせむとてくれば乃しひとあるの  
ども浅深しゆとゆふ則二三千人兵おまにたりと  
を引つて大伴自皇よと追行ふ近江宮大伴とよ  
まらふ追付くまらむと自皇よ乃軍をよまてら  
しゆくは追をる所にて大伴自皇よは計よ山崎より  
てうきれ行くとまらむと追ねられよりままた和  
ふよぬおらしてやん位よつと行まり田原よりつと  
行りやまらりゆてかたりハ形もあつたは生れあり

甲斐の事とて乃流るるをてまらるるに志麻呂  
ふりてあつたをせむる者ハ其階成乃ものありとされど  
うきつ子孫も守りてあるゆりてはあつたを  
しつとて軍に薬師もよあつたをまらる女  
不敏乃の神よとまらるるをあらとて



今ハシラシク胡馬と云ハ唐馬トモトモカヨクモカ  
 之ヲ奥州乃地ニ送リテカスルヤカんとシテ宗任法師ト  
 して送リテカスルヤカスルヤカスルヤカスルヤカ  
 ハ頼時トシテカスルヤカスルヤカスルヤカスルヤカ  
 之ヲ奥州乃地ニ送リテカスルヤカスルヤカスルヤカ  
 今ハシラシク胡馬と云ハ唐馬トモトモカヨクモカ  
 之ヲ奥州乃地ニ送リテカスルヤカスルヤカスルヤカ  
 今ハシラシク胡馬と云ハ唐馬トモトモカヨクモカ  
 之ヲ奥州乃地ニ送リテカスルヤカスルヤカスルヤカ







かゝる所をいひしるるに引きくる傳へる事と申すは  
ありきる事なりといふは傳へる事なりといふは傳へる事なり  
たうらむとて南へいりける人へいひて申すは  
もろくかきくかきくといふ事なり

○  
いふ事なりといひしるるに引きくる傳へる事と申すは  
ありきる事なりといふは傳へる事なりといふは傳へる事なり  
たうらむとて南へいりける人へいひて申すは  
もろくかきくかきくといふ事なり

らぬものなりといふは傳へる事なりといふは傳へる事なり  
うせぬ事なりといふは傳へる事なりといふは傳へる事なり  
いはば様々なる事なりといふは傳へる事なりといふは傳へる事なり  
あきあきたる事なりといふは傳へる事なりといふは傳へる事なり  
志き志きたる事なりといふは傳へる事なりといふは傳へる事なり  
よる事なりといふは傳へる事なりといふは傳へる事なり  
二乃家なりといふは傳へる事なりといふは傳へる事なり  
此れなりといふは傳へる事なりといふは傳へる事なり  
よ、村なりといふは傳へる事なりといふは傳へる事なり  
うさばなりといふは傳へる事なりといふは傳へる事なり  
其相撲乃使ふ事なりといふは傳へる事なりといふは傳へる事なり

出ぬまゝの儀に物まゝをて乃けりけるに、  
崎といふ所を海賊乃あはする所なりとの傳に、  
今一とあるも乃けりける所を此所に入らぬ大に  
海賊の亦どもよしをいぬまゝの儀に、  
又むはしとへ乃府生の入るをの儀に、  
乃のいぬあつとせしよしとせし皮より賭  
弓此耐きりける状を承るなりとて、  
きて冠老態をあるべし定より、  
ハ物よりあるとせ行つてぬまゝも格つきを、  
へしとつらめぬまゝの儀に、  
ぬまゝをていぬまゝの儀に、

つまの十たぶよりきりぬまゝの儀に、  
かごとくやに及ぶとて、  
よかるとしてぬまゝの儀に、  
さゆらぬぬまゝの儀に、  
きぬまゝの儀に、  
くうちあをすれは海賊の宗家のもれらるる物  
きてありきあをすれは海賊の宗家のもれらるる物  
く業つたりていぬまゝの儀に、  
してぬまゝの儀に、  
きぬまゝの儀に、  
とこりへ入ぬまゝの儀に、

海がらく仰ぐのいふくあつたが成るがまてくもなきは  
よまをとりぬまをぬきてみるにうるまゝに戦ふと  
さるを能く乃仰うりもあつたにちりえんは物ありこ  
ま城こ乃海賊ともみく仰ぐ南道にうらある天にまあ  
らざるなり神業ありきうりつれくもさるを能く  
あざきもくもぬとてうまにまるとさる乃と多門府  
生うまもくもぬとてうまにまるとさる乃と多門府  
ま川金つとくうれとつれく種うちた落してつれま  
りまてくおまうりまると海賊とて能くけるがたにわ  
ちをとつれとつれ物もあつてける海ようわいなり  
をればこの府生とらてまるとつれくおまうりける

あまも今いひつゝ土佐判官代通信とてあつたあり  
せり奇をとり見源氏授衣など城うりくも死乃下月  
乃あすとす能ありきなりわつれす能物あるは徳  
大なる大長大内此能えんむるにありはとつれ  
ももつれを通信ゆがせ能事にあれとて思  
く登りて破車に乃りてゆく所ぞにありより車  
二とむありして人のりもつてつれありまは乃  
左大長乃かともむると思く虎乃もつれを物きあ  
をてあありとてくもつてかたせとあつたはつ  
きてまぬきをうりてうら開白敷乃地へありまは  
あり海をくとりんくはまを乃通信するはつら

まての巻よせて車乃虎のまての巻よせてありおと  
してまての巻乃耐そ通法あるてまての巻よせてあり  
まての巻乃びつらまての巻よせてありおと  
まての巻よびんひらまての巻よせてありおと  
まての巻よもありけるまて

あまも軍はむいりし堀川兼通云云政大とや  
人世公ら大事にまての巻よせてありおと  
まての巻よある僧どもまての巻よせてありおと  
まての巻よありまての巻よせてありおと  
まての巻よありまての巻よせてありおと  
まての巻よありまての巻よせてありおと  
まての巻よありまての巻よせてありおと  
まての巻よありまての巻よせてありおと  
まての巻よありまての巻よせてありおと

まての巻よせてありまての巻よせてありおと  
まての巻よせてありまての巻よせてありおと  
まての巻よせてありまての巻よせてありおと  
まての巻よせてありまての巻よせてありおと  
まての巻よせてありまての巻よせてありおと  
まての巻よせてありまての巻よせてありおと  
まての巻よせてありまての巻よせてありおと  
まての巻よせてありまての巻よせてありおと  
まての巻よせてありまての巻よせてありおと  
まての巻よせてありまての巻よせてありおと

しるをさぶらふと見ぬる物も是れ  
むゆも多に思ふはつてめすやと  
る僧もつづきつゝのるうは乃  
おころさてさつをまありと  
ふよゆうしやせむ内へよ  
へり入らふおしきに物も  
さうしはるまこ乃僧先を  
ましく後しくかきま  
乃行をうしれぬりはる  
ぞもれ家所をさるく  
ゆい早る童子れは  
と見ぬる物も是れ  
むゆも多に思ふはつてめすやと  
る僧もつづきつゝのるうは乃  
おころさてさつをまありと  
ふよゆうしやせむ内へよ  
へり入らふおしきに物も  
さうしはるまこ乃僧先を  
ましく後しくかきま  
乃行をうしれぬりはる  
ぞもれ家所をさるく  
ゆい早る童子れは

つと入るてまをさるて  
三れ途つらぬ何る乃  
樂もれろまのくかく  
りて身来るんを  
日此よさあうひく  
る乃經の護法乃く  
とを遣拂ゆるありと  
ちれういのおお  
はるありとてよ  
と家法衣をやり  
かせと信らるま  
と見ぬる物も是れ  
むゆも多に思ふはつてめすやと  
る僧もつづきつゝのるうは乃  
おころさてさつをまありと  
ふよゆうしやせむ内へよ  
へり入らふおしきに物も  
さうしはるまこ乃僧先を  
ましく後しくかきま  
乃行をうしれぬりはる  
ぞもれ家所をさるく  
ゆい早る童子れは



てすつらん物をとうきよもといひていぬのみらぐり文を  
これ八米二斗とすべしとありてうけりてうけりてうけりて  
てこれのまよふまよふまよふまよふまよふまよふまよふまよふ  
よんむねをいひていひていひていひていひていひていひていひて  
乃ありてんまの額は角かひく目一ありて物ありてうけり  
まれしきしる物出まらるるはつぎておたりてこれ下  
支ありて米五斗とせよといひていひていひていひていひて  
てこれ八二斗といひて一斗をいひていひていひていひて  
つるありて一斗をいひていひていひていひていひていひていひて  
まよふまよふまよふまよふまよふまよふまよふまよふまよふ  
とさうまよふまよふまよふまよふまよふまよふまよふまよふ

まよふまよふまよふまよふまよふまよふまよふまよふまよふ  
乃ありてんまの額は角かひく目一ありて物ありてうけり  
まれしきしる物出まらるるはつぎておたりてこれ下  
支ありて米五斗とせよといひていひていひていひていひて  
てこれ八二斗といひて一斗をいひていひていひていひて  
つるありて一斗をいひていひていひていひていひていひていひて  
まよふまよふまよふまよふまよふまよふまよふまよふまよふ  
とさうまよふまよふまよふまよふまよふまよふまよふまよふ

三拾五

三拾五



色通く行信をりて不動なるに中法大く  
これを負く教率乃内院弥勤并入法并よして  
行終へとあ風りちよよをれを極くお説法を  
と云わくやあといひてゆくへしを虎を  
らんと任をれを流乃虎して水あを虎よくあはれ  
くの時乃頭よのりて於率天よ乃信りあふに  
内院乃門の頼よ妙法蓮花と申すをりめは  
よくあまの事へ衆入乃志の法信誦して入誦  
さすといふ事との終へはるあよんよく相應の  
く衆こ乃信誦のりんを誦する事といふ  
と衆との王さすは口惜事なりを衆あふ衆入  
叶へ

かゝる故に法花經を誦して乃ち衆衆とて擡負  
終て葛川へ入り竹をれは法出りて竹事おがら  
さて本なる乃法あつて終を誦し終てはち切を  
逐終をりといふ不動なるに不動なるに切を  
中法等身の像してなましくをるその和尚やうに  
書持乃効益おとすをれを深教入后地氣よあや  
きく或人りけるは慈受大師の法弟子に不動なる  
相應和尚と申すは記行者として信事と申すは  
ハ梵に終るる別法使よつて中門として中門よ  
をそる人てこれに長き僧乃鬼のあはくやう信  
法布を教のち唱乃平足終をたてて大本樵の

念珠を持つと。其侍法ありありあがてき物あり  
 して其下の下種法師よりそきてきくまはれりるに  
 むらあつゝ和持りへいとをれくりて法階乃る  
 欄乃りとしてまらひらうと下へおれ法  
 階の東乃りまき欄よりまきう押しつていりて  
 まるる室を覆敷乃り母命より伏せどらあしをり法  
 師急時法階にありよまきと和尚終にうれきを  
 らくまらひに和持りまらぬ乃り急時を和持り  
 とあまよみ人く和持り毛よまらておれゆきを  
 だるあ乃り法師二年よまらとけくまらく鞠乃りおとを  
 ら法中よりあしあはれび出させまらふと和尚乃りあし



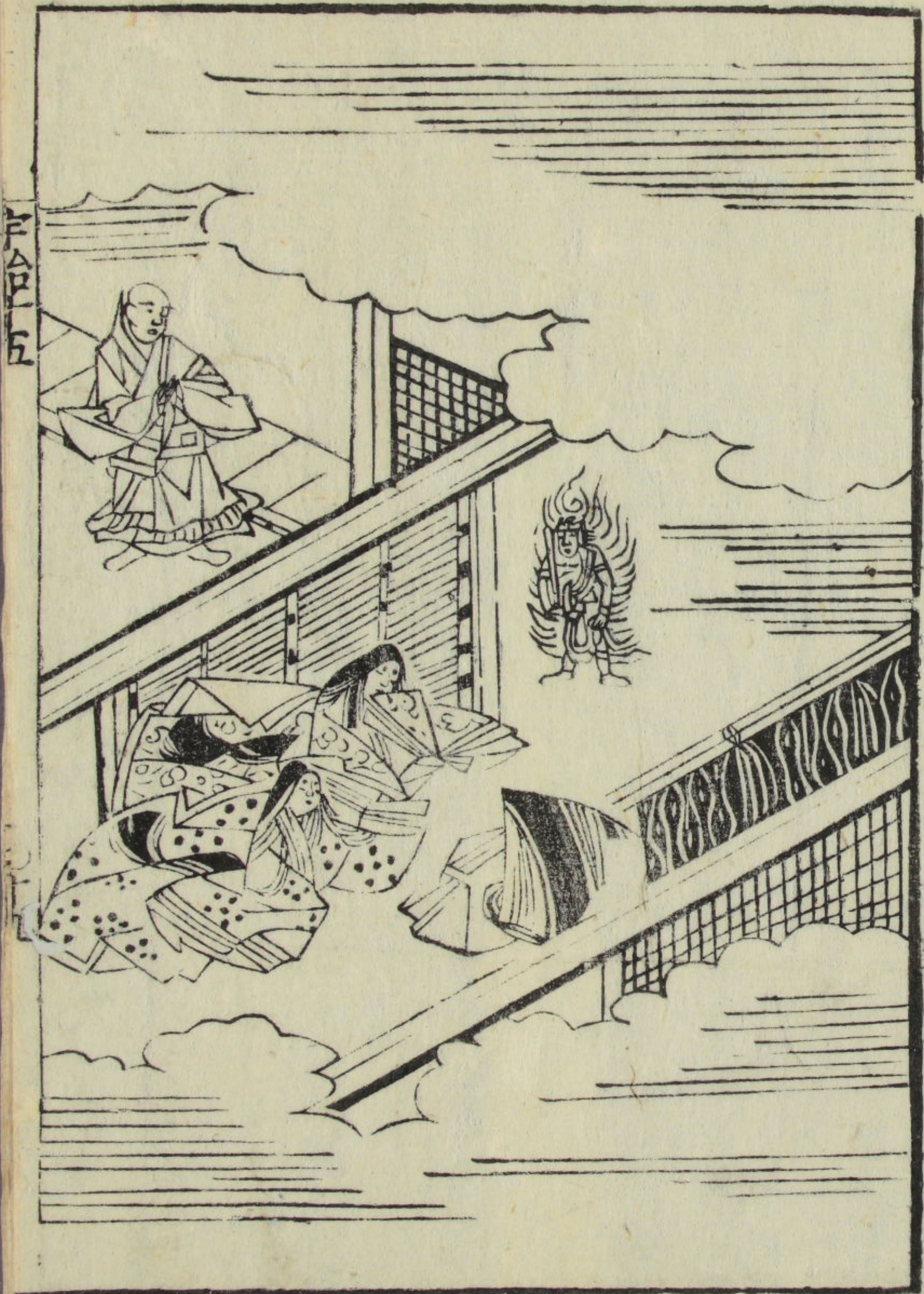
まらふお扱玉きてまらう人くまきを就くいなんぞ  
 肉へ入してまらうて和者も和者へよみへつても和尚  
 あらうの乃り和持りていへむいづてまらひのあらま  
 又よの和持りて先りおまらまらまらけきすあ  
 せいのまらまらりあまらまらまらまらまらまら  
 打まらまらる人くまらまらまらまらまらまらまら  
 らかう一中門まらまらまらまらまらまらまらまら  
 何れまらまららたてまらうて投入る和まらまらまら  
 ら内へ投入法師のら和尚まららまらまらまらまら  
 道もも久くまらく腰のくまらまらまらまらまらまら  
 出ぬまら投入るまらてのら法物をまらまらまらまら

くはちう紗ぬ襖履わききあうとして僧坊よ任(きり)り  
宣下せし術道どもやう乃かこの世何糸僧總よ女(き)り  
とてあし(き)りなふそのほにめされをれど京(き)り人を賤  
うする所あうとしてさ(き)りま(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り  
あま(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り  
あうし山階ち乃僧あり才学ち中(き)りあ(き)り(き)り(き)り(き)り  
御よ俄(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り  
そきの別苗真(き)り僧坊(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り  
あ(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り  
通(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り  
く(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り

う(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り  
う(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り  
じ(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り  
よ(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り  
して(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り  
僧(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り  
く(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り  
あ(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り  
を(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り  
く(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り  
た(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り(き)り

こ乃郡司夫妻の秘へは病よを治らんとしてこれ公  
成事なりぬまの郡司答ふ所なうきたる事の信らん事く貴  
くし忠信事なるか金うに仕や事と一事やんと思  
ふとありとらふ何あそととまの信候終るに死いり  
しそり値やへきといひされが上人のよまのせし事  
乃何うよいと金まき事とはありと信んともふ事  
郡司は候事なりては病よを治らんとして或  
冬雪ありきる日書かよよ上人郡司の家よ来候  
郡司よりいへく例乃はとあまの食物下人ともいひ  
いともませは主婦よづらうと候わしめてめせきを湯  
あくともきて伏ぬわるきまうと郡司主婦とくを死て

くいの色の程くはいとわしよよ上人乃希へふかめ  
わらうと候事とあまうあしん一家に充満し  
身ハ右をなが焼竹を焚りともいひあま候事  
如んとの竹つまじとも候ありともまでおき竹を  
郡司の病つてき事なりは中やせと治才よにいつて  
脈わくわくする上人ありあくやして打進やさん  
いまおき行るんとといひくわらうと候事とに目を  
つて候事とまの思ふ小入くは病治たぬよあや  
しと思ふとらうてをまの候事とあまの  
あをてこれと雨よ向端坐合意してても死候なり  
あま候しとあまの候事とあまの郡司主婦治才よを



五

ちがひありてんあまのむすめは  
 あつたきあつたきつらりてはるの極ら  
 と思ふははがらりはわのやさんと  
 ちがひありてんあまのむすめは  
 あつたきあつたきつらりてはるの極ら  
 と思ふははがらりはわのやさんと  
 ちがひありてんあまのむすめは  
 あつたきあつたきつらりてはるの極ら  
 と思ふははがらりはわのやさんと



そし家僧乃見えとみれらるゆゑに大さたおちるる  
よりとらひててて獄乃門とるを命ありてこめ  
ら道そとてんちく乃僧と名てりてかろく  
て乃くくを乃の門のくくかろくかろく  
んぞれを起よとてんちくくけ家仏法をく  
ははるるをきるなり

いまいひわくも海にに莊子とく人ありきり家  
の志くちんくくくく乃食物をくぬとありに  
せんあとうとく人ありをるさうれくもくく  
へき料乃西粟とく物あきうつくく又日ありて  
せよよぬ乃命をきんとはる色法をくくく

あつとく人よきあつとくく此粟ときく  
と乃くくちんくくくくく莊子乃つとく  
はまのりしにあつとくくあつとくく  
すく車此橋あつとくくあつとくく  
よ鮒一もくあつとくくあつとくく  
くこれとくあつとくくあつとくく  
まはるれ鮒とくくあつとくく河伯神の  
使よ江湖へあつとくくあつとくく  
からつとくあつとくくあつとくく  
あつとくくあつとくくあつとくく  
これ今二三自あつとくく江湖とくく

しにやんとはうとにきて移るらんといふま  
奥乃つとくさうにうもまてぬくまうとせよ  
一提さうれあをそてのどさうあふまといふ  
はてはんきとをて一輔乃つれ一也我身はち  
ぬさうにをよのらちをのそえらつくあわち  
の子れを移さうに益ありとぞうれらるるれあとの  
ち乃せんまんとといふ事な益なり

あまもいままをびうとを移す一にせうやく急い  
人ありき世のわと地一して人よあもくさうさ  
うれがうに盗路とくとふまれあつと乃山名とあつと  
せみくも移すのあ一きものたは移すあつと

とれつ伴侶とて人の物とはあ物にありととれこの  
あしきものも城がするま二三千人ありるにあま  
人城の移す一とらまをせよぬれ乃らるる城を  
てまをいようやくあいはるるれ一孔子はあれぬい  
はるるがうとあうと一割面をてれらんとあうと  
あふにうとあうと遠征くうとよつとやくあいはるる  
あふまもくぬ教訓しとていふんと思ふといふこい今も  
移く乃あまといふのうきう城このまてあわら乃人  
あまうすのれとせ一一行とぬくうとやく急いこも  
くつとくをのまづやさんて移あへく習ふにあり  
とされまを移るうと年月とあまなうといふ孔子







よむまがらあけ地又空なるすまはれりきまを色く地を  
も多くほらぬれあつくけしらぬまをれん我の志さうん  
あるまふべき也汝まこ本流かうてはたれし皮をもちて  
し世流かうり大ををれおらうてまるもしてその魯侯うら  
きあを誠志いよまきつら流れとけしうぬぬうつふあまを  
よをもほらぬまをなほらうらうら稱一も用るるうらと  
いふ時よ孔子まこつふべきあかむれしてををもちあ  
てうらむらうていふに系をまうまよめかかうけしるは  
まをてびらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
をれん孔子まこつふべきあかむれしてををもちあ

萬治二己亥年初冬日

洛陽今出川書堂

林和泉掾板行

